

## 令和6年度 市民協働事業評価シート（イメージ）

No.

1

事業名	外国人を支えるやさしいまち		
団体名	NPO法人こまえにほんごしえん・日本語スクール	担当課	政策室
事業目的	狛江市在住の日本語に不慣れな外国にルーツをもつ児童・生徒と保護者の日本語学習のサポートなど		
事業内容 (計画内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対面支援（生活言語習得支援）：放課後支援・にほんごサロン</li> <li>■ やさしい日本語翻訳（学校の配布物等をやさしい日本語に翻訳）</li> <li>■ ちょこっと通訳</li> <li>■ 公開講座</li> </ul>		
事業目標	外国人児童・生徒と保護者の日本語学習をサポートし、外国人にやさしいまちづくりを進める。		
役割分担	団体：事業の企画・活動の周知・人材育成 市：予算と活動場所の確保・活動の周知等広報		

### 事業の成果

事業評価	事業の計画段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 協働して事業計画を作るにあたりお互いに共有できたこと、改善が必要と思われること (共有できたこと)</li> </ul> 外国人の児童、生徒、保護者の困りごとの実態を把握し、事業の必要性を共有することができた。また、団体の更なる知名度アップの必要性を認識した。
		(課題) 支援が必要な対象者に支援が届くよう、関係部署と連携を図り、団体の活動を周知していく必要がある。
	事業実施段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 情報共有を図りながら互いの強みや得意分野を活かし実施できたか。</li> </ul> (情報共有や役割分担など協力できた点) 事業の企画を団体が行い、情報共有、実施場所の確保と、事業の広報等を市が協力して行い、適宜連携を図り事業を進めることができた。
		(課題や改善が必要な点) 支援が必要な子どもたちが認識しやすいよう、定置での実施が必要であった。また、転入、入国時点から支援ができるよう周知方法の検討が必要である。
	事業終了段階	(協働事業を実施した結果) 外国人住民が困っていることや必要な支援を把握することができ、対応できる窓口の創設に向けた検討が期待できる。
		(計画に対する事業効果) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後支援 12件 (2箇所)</li> <li>・ にほんごサロン (月3回実施 ○人参加)</li> <li>・ 公開講座「やさしい日本語」 (○人参加)</li> <li>・ 相談 ○件</li> </ul>
協働による成果	事業実施者満足度	団体との協働により、外国人住民の課題把握が進み、市が担いきれていない部分の外国人支援を進めることができた。

市記入分

協働による成果	相乗効果の有無	有	外国人住民に必要な支援の把握ができ、必要な取組が見えてきた。情報を共有することで団体に必要な支援を行うことができた。
	協働事業での課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人住民に団体が知られていない状況があり、団体の存在と活動内容をもっと周知する必要がある。</li> <li>・活動メンバーの充実、団体の自立に向けた資金の確保が必要と考える。</li> </ul>
総合評価		<b>B 概ね期待どおりに進んだ</b>	<p>今年度の活動自体は概ね計画通りに進んだ。</p> <p>外国人支援の課題を認識し、市があまり担うことができていなかった支援について、団体との協働により実施することができ、お互いにメリットがあった事業であったと考える。外国人支援については、庁内においても多くの部署と連携が必要であることから、今後連携を進めていく必要がある。</p> <p>団体は今後も事業の拡大を予定していることから、引続き支援を行う一方、自立に向けた基盤強化等も必要であると感じた。</p>